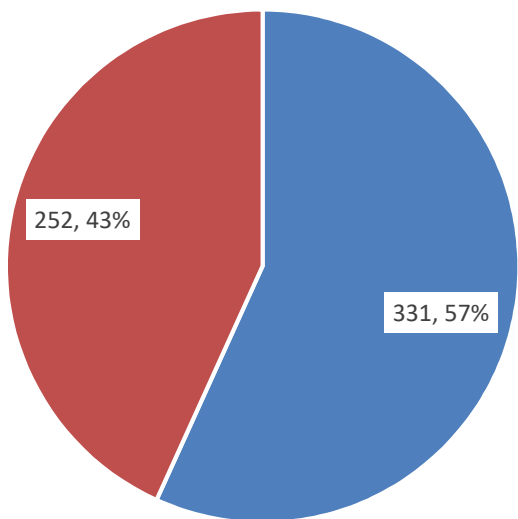


呼吸器リハビリテーションにおける発声・発語・嚥下機能等について

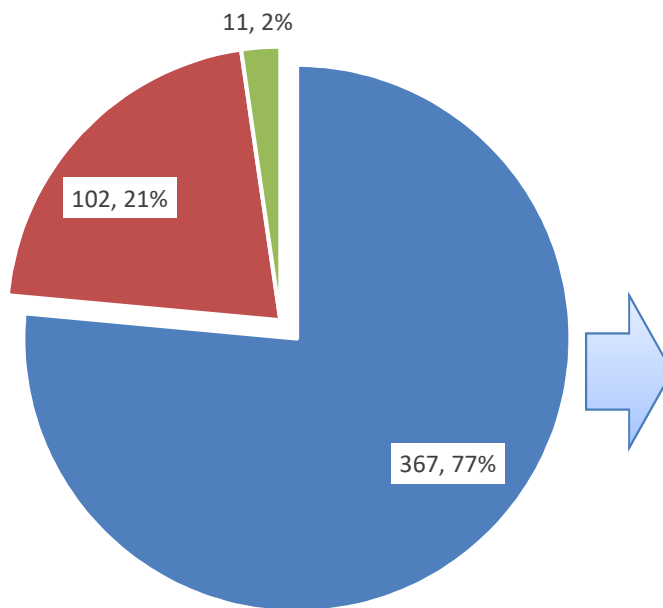
- 呼吸器リハビリテーションを要する患者においては、発声発語器官の機能低下によりコミュニケーションに問題を抱える患者や嚥下機能の低下を認める患者が多く存在している。
- 呼吸器疾患を有する患者に対する言語聴覚士の具体的な介入は、「呼吸筋ストレッチ(77%)」、「呼吸訓練(84%)」、「排痰法・気道クリアランス(66%)」、「咳嗽訓練(94%)」等であった。

呼吸器リハビリテーション対象者におけるコミュニケーション障害



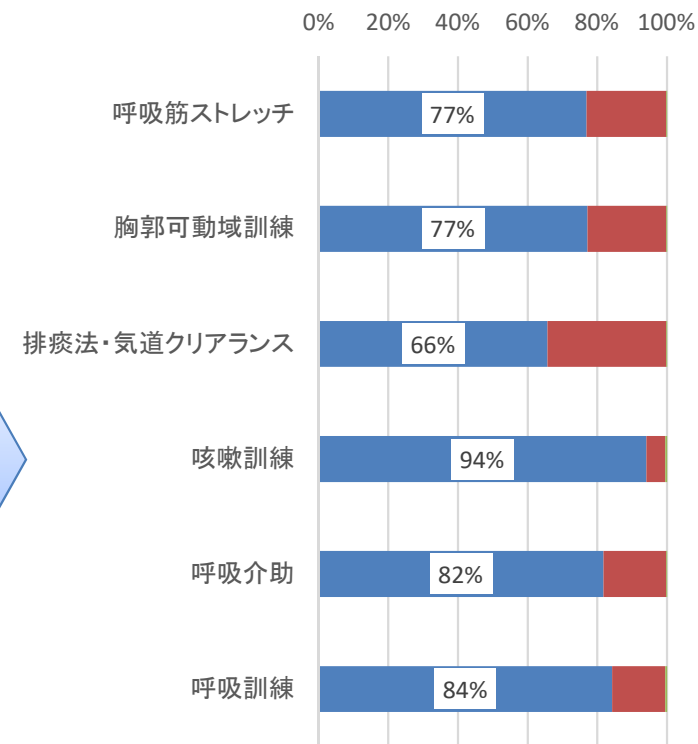
■あり ■なし・無回答

呼吸器疾患を有する患者に対する言語聴覚士による介入の有無



■あり ■なし ■無回答

言語聴覚士による介入の具体的な内容



■あり ■なし ■無回答